

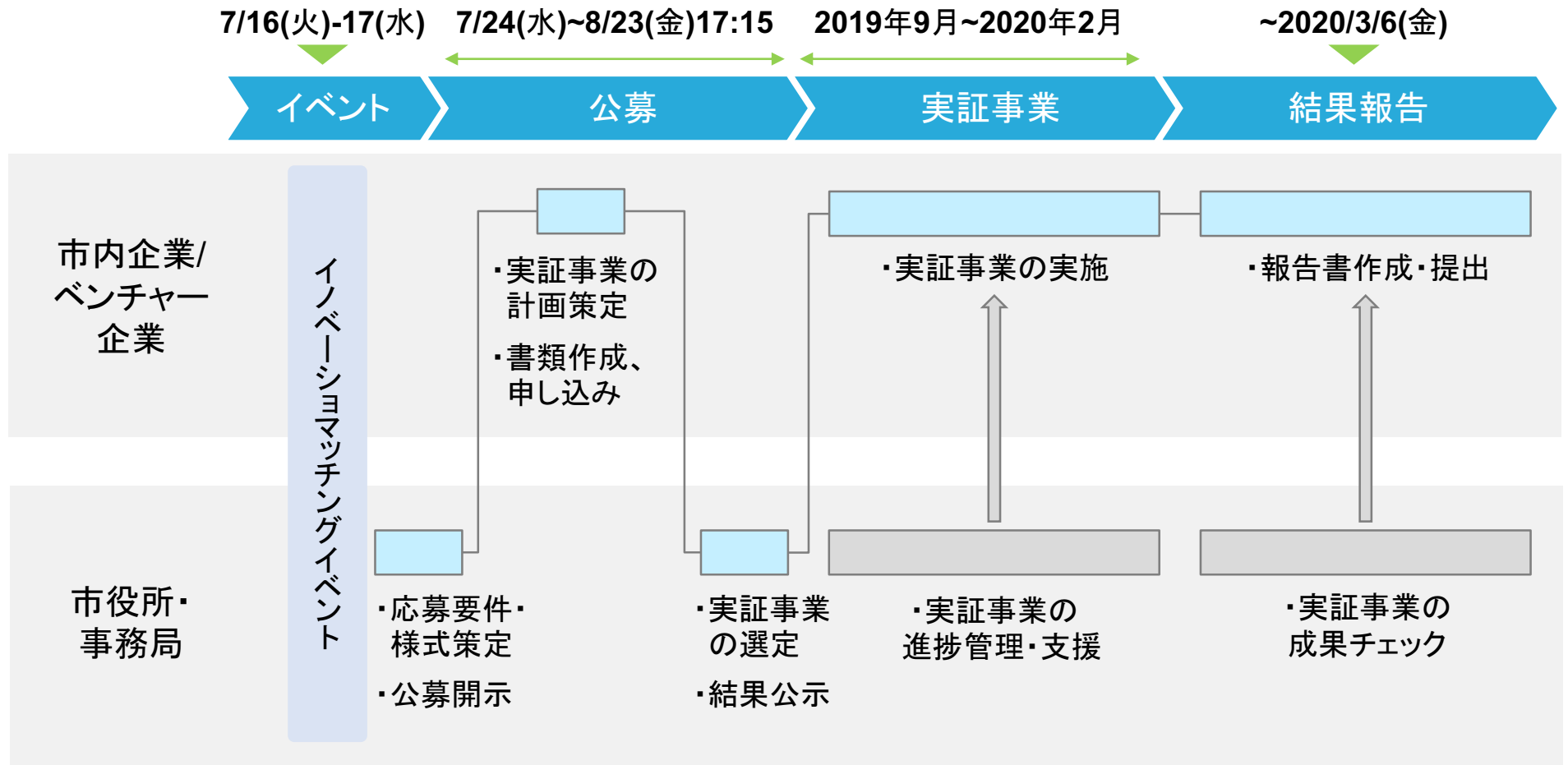


苫小牧イノベーションマッチング2019

～実証事業申請について～

実証事業の公募期間は7/24(水)~8/23(金)で、実施は9月から2月の約6か月間となっています

イノベーションマッチングイベント~実証事業の流れ



申請主体は苫小牧市内企業とし、ベンチャー企業(市外企業)は申請のサポートを行う形で各種資料をご準備下さい

申請関連情報

申請者	■ 苫小牧市内企業 申請内容については、市内企業とベンチャー企業が共同で検討すること
事業実施体制	■ 苫小牧市内企業 × ベンチャー企業 もしベンチャー企業が2社以上の場合、少なくとも1社はプレゼンテーション登壇企業とする
申請受付期間	■ 令和元年7月24日(水)～令和元年8月23日(金)午後5時15分まで(必着)
提出資料	■ 補助金の交付を受けようとする者は、以下の書類を提出すること。 ア 苫小牧市イノベーションマッチング実証事業補助金交付申請書(様式第1号)(正本1部、副本10部) イ 事業概要資料(様式第2号)(11部) ウ 申請法人及び連携する法人の概要を把握することができる資料(会社概要、事業報告書など)(1部) エ 完納証明書(市内に事業所等を有する者に限る。)(1部) オ 法人の登記事項証明書(1部) カ 申請書一式(申請書、事業概要スライド、添付書類)の電子データが格納された電子媒体(DVD-Rなど)(1部) キ 応募条件・同意書(様式第3号)(1部)
提出先	■ 苫小牧市総合政策部政策推進室政策推進課 (担当:辻) 〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号 E-mail: seisaku@city.tomakomai.hokkaido.jp ※郵送又は電子メールにて提出すること。
相談連絡先	■ 事務局(デロイトトーマツ コンサルティング 合同会社) (担当:原元、道川) E-mail: tomakomai_innovation@tohatsu.co.jp 電話番号:03-6860-7722

参考：平成30年度における実証事業

昨年度採択された実証事業は以下の9件です

採択事業一覧

#	申請事業者 (苫小牧市内企業等)	共同事業者 (ベンチャー企業)	事業名 (事業内容については次頁以降を参照)
1	株式会社 ホテルニュー王子	株式会社Voyagin (楽天株式会社)	Voyagin利用による苫小牧への外国人旅行客誘致事業
2	株式会社OTis	株式会社うちゅう	未知なる宇宙の魅力を親子で知ろう！宇宙学校 オータムキャンプ
3	株式会社OTis	楽天株式会社	苫小牧市産品のオンラインアンテナショップの立ち上げ
4	株式会社トートー事務機	株式会社シーエス レポーターズ	市内各種イベント及びコスプレ記念撮影AR企画
5	社会医療法人 平成醫塾	株式会社テクリコ	リハまる(MR/VR)を用いたリハビリトレーニング
6	苫小牧工業高等専門学校	株式会社うちゅう	ウォーターロケットのシミュレーションソフト開発及び、上記を用いた研究者育成教育の実施事業
7	商業協同組合苫小牧港市場	株式会社Origami	Origami Payを活用した「ぶらっとみなと市場」のキャッシュレス環境整備および送客支援
8	株式会社萌運輸	株式会社北日本広告社	カンボジアでのカシューナッツ農園開発に関わるクラウドファンディングを活用した資金調達事業
9	一般社団法人りあん	トリプル・ダブリュー・ジャパン 株式会社	排泄予測デバイスDFreeによる障がい児童の生活支援効果実証事業

株式会社ホテルニュー王子 × 株式会社Voyagin (楽天の子会社)

Voyagin利用による苫小牧への外国人旅行客誘致事業

1

プロジェクト概要

背景/課題

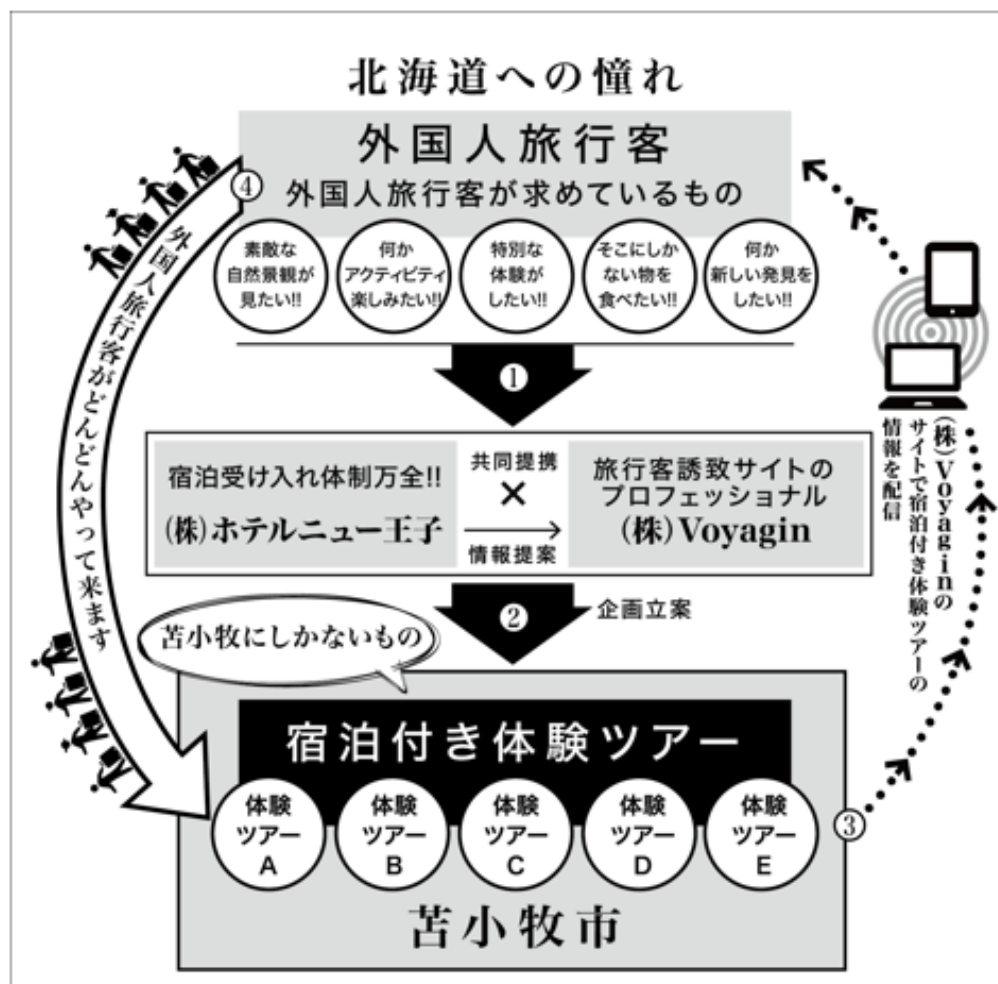
・苫小牧を目的地とした個人旅行者を増やしていく為に、外国人旅行者にターゲットを絞った宿泊付き体験型ツアーの企画・効果的拡散等により苫小牧の認知度を引き上げたい。

外国人旅行者目線による体験型感動とは何か？を探り、苫小牧が持つポテンシャルの中で何がマッチングするのか？を発見し具体的に体験（利用）出来る環境・機能を整備することが必要。

事業内容/期待効果

Voyagin 専属の外国人プロフェッショナルに、苫小牧のポテンシャルの中から外国人目線で外国人旅行者に“刺さる”要素を一緒に洗い出す作業をして貰い、それを体験型ツアーに仕立て上げ、Voyagin のネットワークを利用して効果的に拡散し、少しでも多くの外国人に苫小牧を認知して貰い、面白がって苫小牧を訪れて貰うきっかけを作りたい。

事業イメージ(全体像)



株式会社ホテルニュー王子 × 株式会社Voyagin(楽天の子会社)

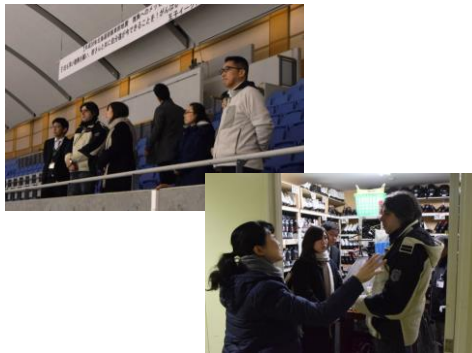


Voyagin利用による苫小牧への外国人旅行客誘致事業

2/2(土)-3(日)の2日間、世界中のブロガー等、SNS上で影響力の強い外国人4人を苫小牧に招き、苫小牧と周辺地域を周遊するモニターツアーを開催しました。実証事業後もパッケージツアーの商品化・販売に向けて検討を続けています。

実施結果

体制構築/外国人プロフェッショナルによる現地視察



Voyaginウェブ上で体験ページの作成



モニターツアー及び販売促進の実施



活動内容

- 楽天傘下となったアクティビティ予約株式会社Voyaginと連携し、今までなかったようなユニークなモノ・コトを発見する企画を検討中である。
- 11/26(月)-27(火)にVoyaginコーディネーターの現地視察があり、これには新聞取材も入りました。
- Voyaginウェブサイト上の現地ツアー&体験のページにおいて、苫小牧ならではの、ひと味違った旅の思い出を作れるような体験プランを掲載する。苫小牧を基点に道内の観光・冬のアクティビティ体験ができるプランの検討を行いました。
- 2/2(土)-3(日)の2日間、ブルガリアやオーストラリア、台湾の男女4人が苫小牧を訪れ、苫小牧と周辺地域を回るモニターツアーに参加しました。しばれ焼きの試食や、ワカサギ釣りを体験し、「北海道を楽しむコンテンツとなる」と高評価を頂戴しました。

株式会社OTis × 株式会社うちゅう

未知なる宇宙の魅力を親子で知ろう！宇宙学校 オータムキャンプ

2

プロジェクト概要

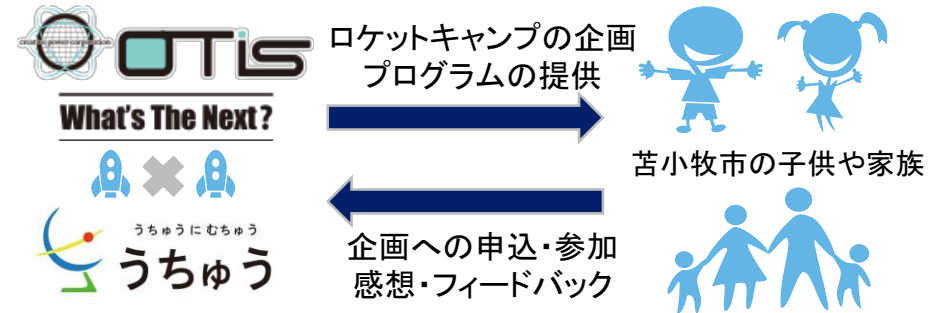
背景/課題

- 近年、大都市圏と地方都市での、学習機会格差は拡大傾向にあります。さらに北海道においては、地の不利があるため圧倒的に少ないのが現状だと感じています。苫小牧においては、好奇心旺盛で多感な時期の子供たちにこそ、見識を広げる様々な体験や経験は必要不可欠であり、この体験や経験の有無こそが、優秀な人材の輩出につながると考えています。
- 現状の課題としては、教育格差及び機会格差から生じる、職業選択肢(将来の夢)の減少と、子供たちをサポートする保護者意識や支援体制の不足があります。

事業内容/期待効果

- 事業内容
【1日目】
①宇宙学校オータムキャンプ開校式 ②宇宙ミーティング ③科学技術を活用したロケット作り ④宇宙食ランチ
【2日目】
①ロケット発射体験 ②懇親会 ③宇宙学校オータムキャンプ卒業式
- 本年度事業をベースに、有料型イベントして毎年開催で収益を上げることは可能だと考えています。また、参加者からのアンケート等を実施し、定期実施型の講座とすることも検討します。

事業イメージ(全体像)



ロケット作成教室のSTEP

【ロケットの仕組みを学ぶ】

モデルロケット指導講師により、お子様が自分自身で考えるアクティブラーニング形式で、ロケット工学の基礎やロケットの仕組みをしっかりと学びます。



【モデルロケットを組み立てる】

世界各国で学校教材として使用され、全世界で55年間に5億5千万回無事故の記録を持っているモデルロケットキットを使用し、約100m飛ぶロケットをお子様にご自分で自作していただきます。



【ロケットを発射】

自作したモデルロケットを、お子様の手で発射します。講習受講者には講習後、モデルロケット講習修了認定書が付与されます。発射後のロケットはお持ち帰りいただけます。



株式会社OTis × 株式会社うちゅう

未知なる宇宙の魅力を親子で知ろう！宇宙学校 オータムキャンプ

地元の小学生を対象としたロケット工作体験「ロケキャン」を11/7(土)ー18(日)に実施しました。参加した児童や保護者からは「宇宙やロケットに興味を持った」、「来年も参加したい」等、の今後の事業継続を期待する声が多く寄せられました。

実施結果

イベントの企画/ 地域住民への広報・募集



イベント及びアンケートの実施



アンケート分析及び 事業展開の検討



活動 内容

- 株式会社うちゅうとシミュレーションソフトを通じた教育プログラムの開発・実行をしている、苫小牧高等専門学校との連携し、イベントの企画を実施した。また、リアッタの活用や、教育委員会との連携で、市民への広報を行いました。
- 11/17(土)ー18(日)に苫小牧工業高等専門学校にて、地元の小学生を対象としたイベント「ロケキャン」を開催した。当日は、約50組の親子の参加があり、宇宙に関する講義、宇宙食の試食、火薬を動力にしたモデルロケット作りなどにチャレンジしました。
- 参加児童へのアンケート結果では「宇宙やロケットに興味を持った」と答えた児童が78%を占める等、大変好評であった。
- うちゅうは苫小牧での事業所開設も視野に入れて、産官学の連携を強化し、宇宙産業の形成・発展と共に事業継続を検討していく予定です。

プロジェクト概要

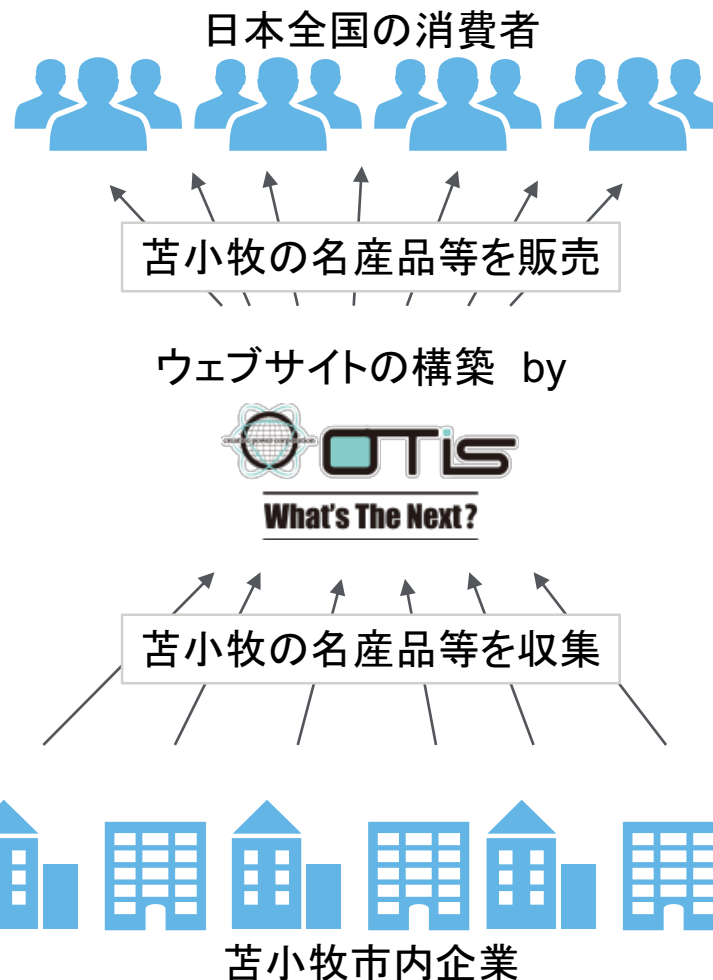
事業イメージ(全体像)

背景/課題

- 苫小牧市にはオンラインショップを展開している企業が24社存在しており、北海道では、8番目の規模である(楽天調べ)。ちなみに、旭川市は、33万人の人口に対して、105のECショップを展開している事業者が存在しており、オンラインショップを展開している企業数は、苫小牧市は相対的に少ないと考えている。
- 解決すべき課題は、苫小牧市の事業者のECに対する苦手意識を克服すること。まずは、ECショップの知識やノウハウを得る場を提供するとともに、自社で実施するのではなく、オンラインアンテナショップへの出店という比較的容易な形で参加することで、ECの活用方法や売上向上の手法について認識して頂き、今後自社でECサイトの運営・活用ができるよう促進していく。

事業内容/期待効果

- 事業内容
OTisが独自のリレーションを活用し、苫小牧市の名産物などを集め、楽天サービス上にオンラインアンテナショップの立ち上げを行う。
- 実証事業の最終月に、1か月の売上30万円を目指す。実証事業の最終月に、自社でオンラインショップを立ち上げる会社を5社増やす。
- オンラインアンテナショップで売上月平均100万円を1年以内を目指す。また、ショップのコンテンツを1年後には10→20にするほか、オンラインショップ事業者を24から1年で約倍にあたる50にする。



株式会社OTis × 楽天株式会社

苫小牧市産品のオンラインアンテナショップの立ち上げ

3

楽天市場への出店は、販売手数料が高く、利益率の高い商品での出品等、出店においてあらゆる工夫が必要であることが判明しました。

実施結果

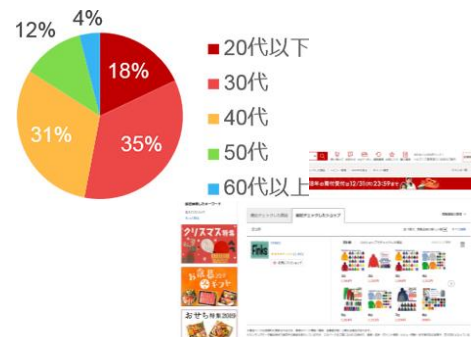
苫小牧産品の収集



オンラインショップでの販売/ オンライン販売トレーニング



売上実績検証/ データ分析



活動 内容

- 苫小牧市内で著名な産品を販売している事業者に対し、声掛けを行い、オンラインショップで取り扱う商品の拡充を行います。
- 販売時の価格設定やマーケティング手法検討過程で、出店事業者が負担する販売手数料が多額であることから購入者満足度と販売事業者の採算が取れないことが判明し、楽天市場への出店を断念するに至りました。
- 大量販売が可能な事業者や、商品を製造している事業者の出店は、出店に係るコストが低く(出店手数料や仕入に係るコスト)、出店意義は多いにあると考える。

株式会社トートー事務機 × 株式会社シーエスレポーターズ

市内各種イベント及びコスプレ記念撮影AR企画

4

プロジェクト概要

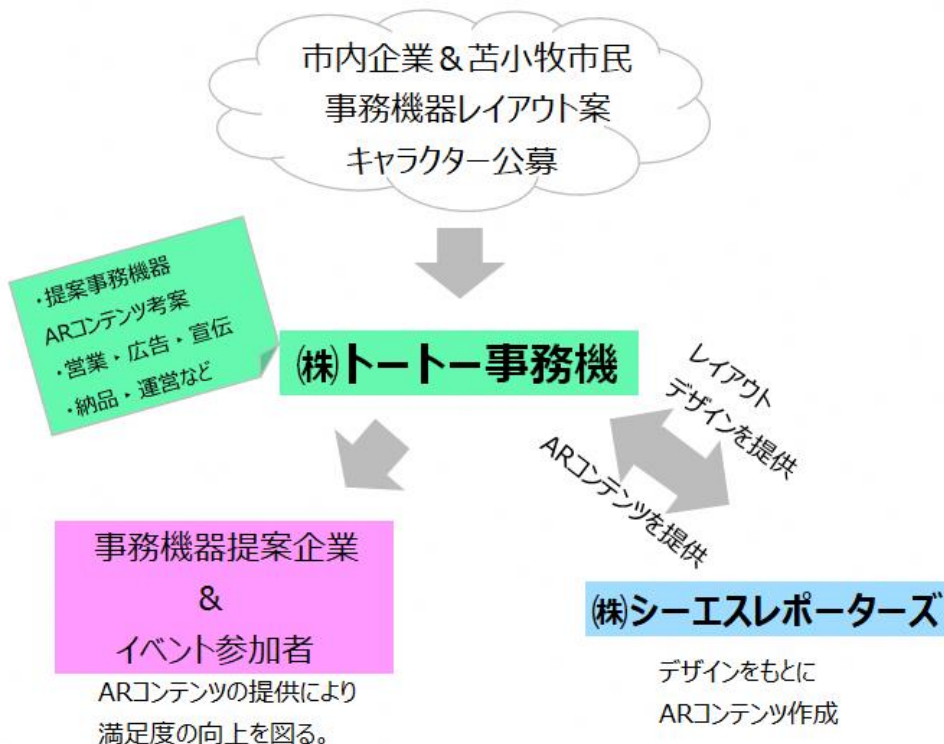
背景/課題

- 事務機器販売において、新築物件やレイアウト変更においてカタログだけではイメージする事が困難な場合があります。ARの提案により家具の配置イメージや配色で満足度を獲得し競合相手(ネット販売)との差別化を図ります。
- イベント補助を手掛ける企業として、とまこまいコスプレフェスタへ何らかの形で関わりたいという考えがありました。その中でARコンテンツはとまこまいコスプレフェスタとの親和性が高いと考え、イベントに参入し更なる盛り上がりには貢献したいという考えに至りました。

事業内容/期待効果

- AR(拡張現実=Augmented Reality)技術を市内でいち早く導入し、業務の促進を図る。またそのノウハウを構築し新たな事業の開拓を目指す。
- 実際の風景に画像を合成するAR技術を活用し、事務機器を導入するお客様に、実際に家具を設置したイメージを提供する。
- とまこまいコスプレフェスタに最新技術であるARを使ったブースを設置し記念撮影の場を提供する。
- サブカルチャー部門に実績を得ることで新たな人脈を形成でき、今まで取り込むことのできなかった層を顧客として獲得することができる。

事業イメージ(全体像)



技術革新とは遠い世界にあると思われがちな事務機器の業界において、本事業を活用してAR導入の取り組みを実施し、顧客満足度の向上と新規開拓への一歩を図ります。

また、イベント参加者が記念撮影をした写真をSNS等に掲載することで、既存メディアに比べて情報が広範囲に広がることを期待しています。ひいては、苫小牧のPRに貢献し、これらの実績を持って市内の企業にPRすることで新たな顧客事業の展開を期待できます。

11/3(土)-4(日)に苫小牧市内で開催された、「第6幕とまこまいコスプレフェスタ」での記念撮影AR企画と並行して、AR技術を活用した事務機販売も推進しており、現在ARサービスの政策・開発を行っています。

実施結果

企画及びアプリ開発



コスプレフェスタでの展開 事務機器ARの企画



ARを用いた事務機器販売



活動 内容

- 9月上旬は、苫小牧市商業観光課との意見交換や、まちなかイベント広場実行員のARキャラクターについて打合せを行い、9/28(金)にはとまこまいコスプレフェスタで利用する、「まい」と「マコ」と写真撮影ができるARアプリの作成を行いました。
- 苫小牧市内で11/3(土)-4(日)に開催された「第6幕とまこまいコスプレフェスタ」において、「まい」と「マコ」と一緒に写真が撮れるアプリを展開し、多くの方にアプリを利用頂いた。
- ARを活用した営業販促アプリの詳細について検討を行いました。
- ARを活用してオフィスのレイアウトイメージが確認できるサービスを開発しており、このサービスを活用することで家具や事務機の設置イメージをより明確に把握することができます。
- 実際の活用へ向けてサービスの詳細について協議を行っています。

プロジェクト概要

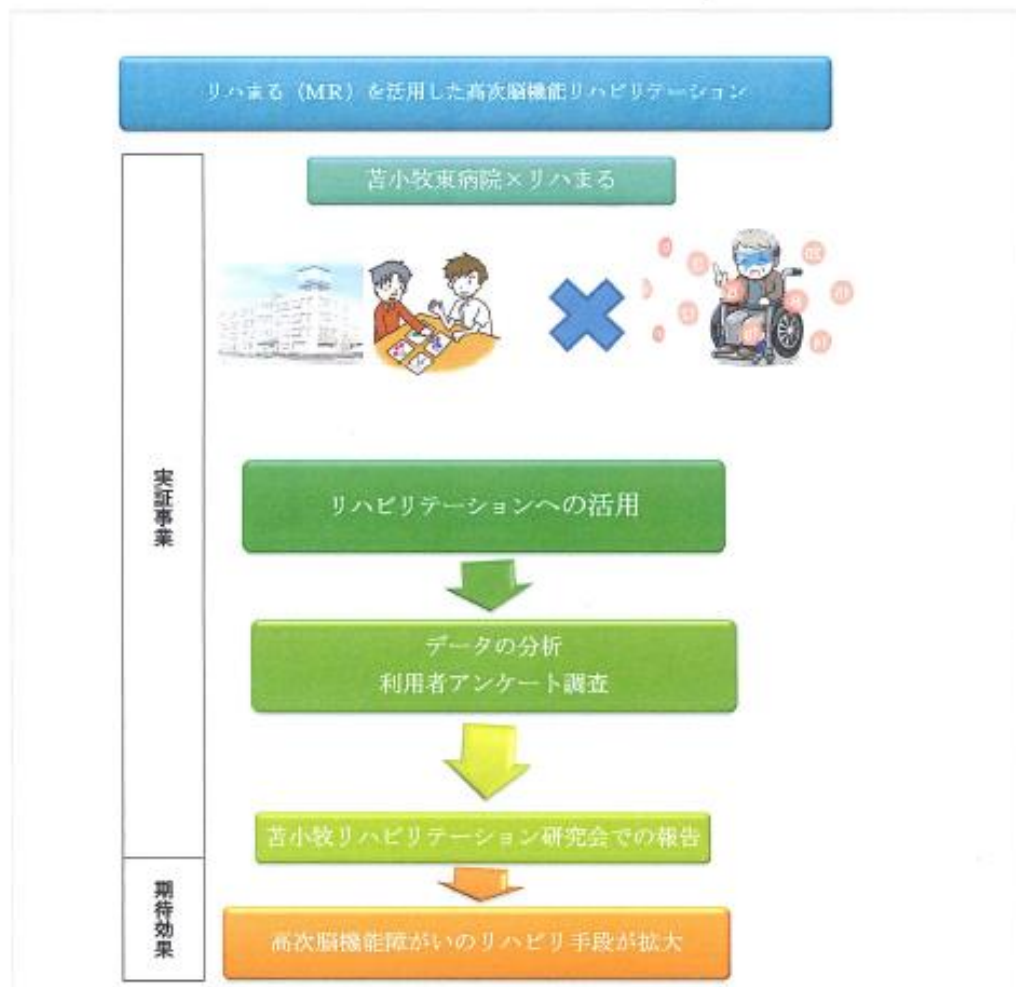
背景/課題

- ・厚生労働省発表の脳卒中を含む脳血管疾患の治療や経過観察などで通院している患者数は 118 万人と推計されており、うち約 14%(17 万人)が就労世代(20~64 歳)である。
- ・脳血管疾患の治療の先進化が求められる。
- ・脳卒中後の障害の中には、手足の麻痺などの目に見える障害のほか、記憶力の低下や注意力の低下など、一見して分かりづらい障害(高次脳機能障害)があり社会復帰への課題となっている。

事業内容/期待効果

- ・高次脳機能障がい者(注意障がい)に対して、リハまるを活用した治療効果を検証する。
- ・高次脳機能障がい者のリハビリ手段の拡大を図り患者さんに提供する。
- ・検証結果を苫小牧リハビリ研究会で報告し地域で情報を共有する。

事業イメージ(全体像)



現実空間に仮想空間を組み合わせるMR/VR技術により、ゲーム感覚で実施できるリハビリ装置「リハまる」の本格導入に向けて、トライアル導入を実施し、3/14(木)には苫小牧リハビリテーション研究会での事業効果報告を予定しています。

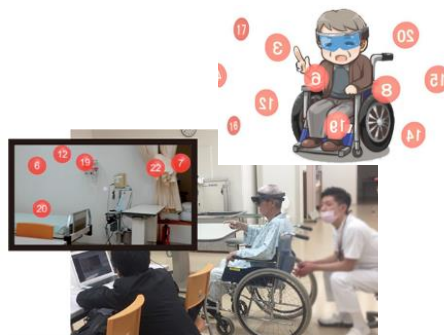
実施結果

機材の導入



- 高次脳機能障がいの治療で用いられる、注意課題(数字を順にチェック)は紙面上で行う単純なものが多いが、MR技術を活用した「リハまる」の機材を導入し、10/30(火)に苫小牧東病院内で説明会を実施しました。

機材の実証/見学の受け入れ



- 12月中にリハまる使用者の選定が完了した。現在は機器のトラブルシューティング使用方法資料作成しており、患者への導入も開始し、使用後のアンケート調査も実施しました。

普及に向けた報告書作成 リハビリ研究会での発表



- 事業実施による効果を分析し、中長期的には他の医療・福祉機関への導入による事業展開を目指して、普及活動を行う予定である。
- 3/14(木)には苫小牧リハビリテーション研究会で、7/6(土)には北海道病院学会での発表を予定しています。

苫小牧工業高等専門学校 × 株式会社うちゅう

ウォーターロケットのシミュレーションソフト開発及び、上記を用いた研究者育成教育の実施事業

プロジェクト概要

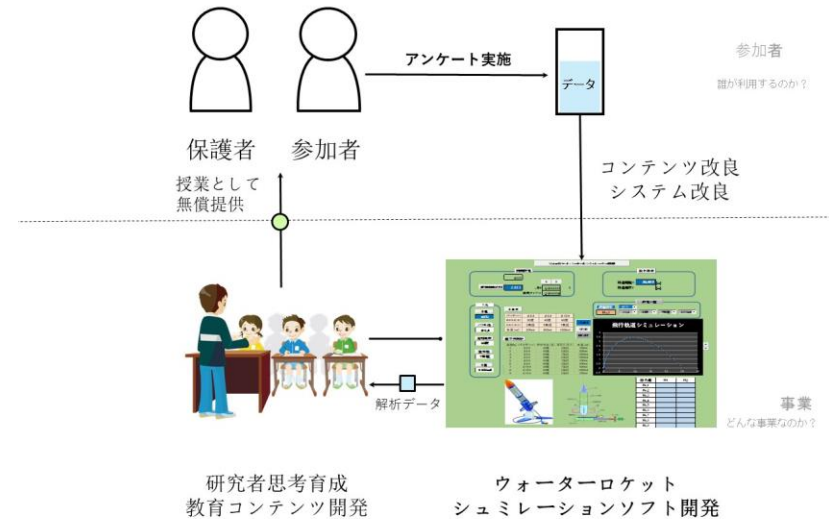
背景/課題

- 苫小牧高専において、JSTプログラムの先駆けとして、市内における小・中学生を対象に、研究者思考マインドを育成する最先端教育の開発及び実行が求められている。
- 現在、理科離れの若者が増えてきており、研究者がある物事に関して、仮説を立て、検証をする思考サイクルを日常で行える人が減少している傾向にある。

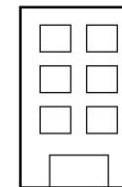
事業内容/期待効果

- 苫小牧高専と株式会社うちゅうがタッグを組み、ウォーターロケットを題材に、研究者サイクルを育成するプログラムを共同開発する。
- 上記のプログラムに用いる、ウォーターロケットのシミュレーションソフトの開発及び、シミュレーションソフトを通じた教育プログラムの開発・実行を行う。
- 上記のプログラムを通じて、苫小牧市内の小中学生の理科離れをなくし、物事に疑問を持ち、それを解決する研究者マインドを育成する。

事業イメージ(全体像)



株式会社うちゅう

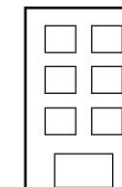


【共同者1】

株式会社うちゅう

- (役割)
- ・シミュレーションソフトの開発
 - ・プログラム教材の企画・開発及び検証

苫小牧工業高等専門学校



【申請者】

苫小牧工業高等専門学校

- 創造工学科機械系、地域共同研究センター
(役割)
- ・シミュレーションソフトの開発に関わる技術的提案
 - ・水ロケット教室の開催実施、集客・管理(2回)

事業者
誰が事業を行うのか？

次世代の研究者思考を育成することを目的とした、科学技術振興機構(JST)事業への申請に向けて、ウォーターロケットのシミュレーションソフトの開発を行っており、本事業の継続的な実施を目指した環境整備を行っています。

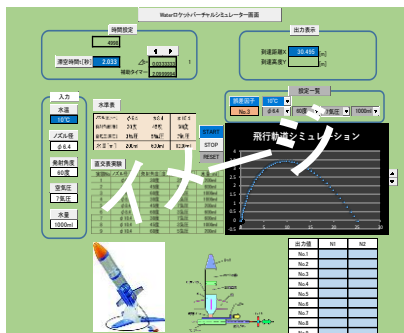
実施結果

シミュレーションソフトの開発

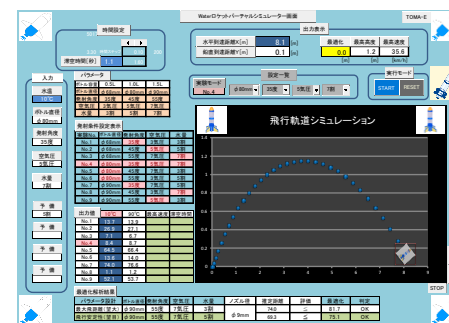
ウォーターロケット教室の実施

教育教材への活用

活動内容



高専提供: 数値シミュレーション画面



- 苫小牧高専のイニシアティブのもと、株式会社うちゅうにも仕様書作成や研究ノウハウの共有を受けながら、10/1(月)にシミュレーションソフトの開発を開始しました。
- 10/20(土)同校の学校祭にて、ウォーターロケットの記録デモ飛行を行い、「ロケキャン」の参加者募集も行った。・11/17(土)ー18(日)に同校にて中学生を対象としたウォーターロケットとシミュレーションソフトを用いたイベント「ロケキャン」を開催し、約20組の親子が参加しました。
- 12月に数値選択式、自由記述式シミュレーションソフトが完成した。現在は改善項目の確認を行っている。
- 科学技術振興機構(JST)の事業「ジュニアドクター育成塾」への申請の素材とし、次年度以降に実施できる体制を作ることによって、継続的にプログラム実施ができる状態を実現します。

プロジェクト概要

背景/課題

今やキャッシュレスは国策として推進されているものの、まだまだ地域の中小企業には浸透していない現状があり、業務非効率による人手不足やインバウンド対応ができていないなどの課題がある。

今回の実証実験を通じて、キャッシュレス化による地域の事業者の生産性向上および売上増進を実現するためのモデルケースを作り、地域の活性化を図り、効果や改善点を含め正確に把握・還元することで今後に活かす取り組みとしたい。

事業内容/期待効果

Origami社の提供するスマホ決済(Origami Pay/Alipay)の決済インフラを整備することで、国内利用者においては利用データを活用した顧客分析・リピート促進を、訪日中国人利用者においては決済拡充による受け入れ態勢整備と新規集客を図ることにより、「ぷらっとみなと市場」の総合的な売上増進を目指す。

事業イメージ(全体像)



商業協同組合 苫小牧港市場 × 株式会社Origami

Origami Payを活用した「ぷらっとみなと市場」のキャッシュレス環境整備および送客支援



ぷらっとみなと市場でキャッシュレス決済システム「Origami Pay」を全21店舗に導入し、売上向上や送客に係る効果検証を行いました。苫小牧でのさらなる普及に向けて他店舗・エリアでの普及活動を行う予定です。

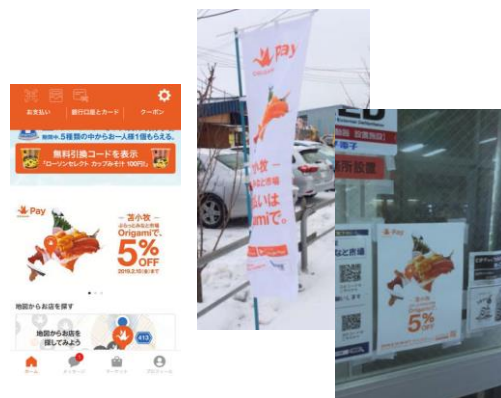
実施結果

Origami Pay機器の導入



- H29年度実績で342,440人の利用者数を誇る集客施設であるが、支払いが「現金のみ」の店舗が圧倒的多数であったことから、最新の新興キャッシュレス決済サービスであるOrigami Payを全21店舗に導入しました。

実証利用促進/広報



- 19年2月までの5か月間の実績としては、Origami Payの利用が79件、Alipay(中国のスマート決済サービス)が13件であった。
- アプリ上でのクーポン配布や店内外でののぼり・POPの提示を実施し、利用販促を行いました。

効果検証/普及活動

Pay & 支付宝 ALIPAY
ORIGAMI
の利用状況を統計で取得



- Origami Pay導入による効果を、(1) 決済利用者数、(2)店舗情報閲覧数、(3)Alipayの利用者数、(4)Origami Couponの取得や利用に係るデータを定量的に分析することにより検証し、苫小牧における効果的な利用促進や普及活動に活用する予定です。

活動
内容

株式会社萌運輸 × 株式会社北日本広告社

カンボジアでのカシューナッツ農園開発に関わるクラウドファンディングを活用した資金調達事業



プロジェクト概要

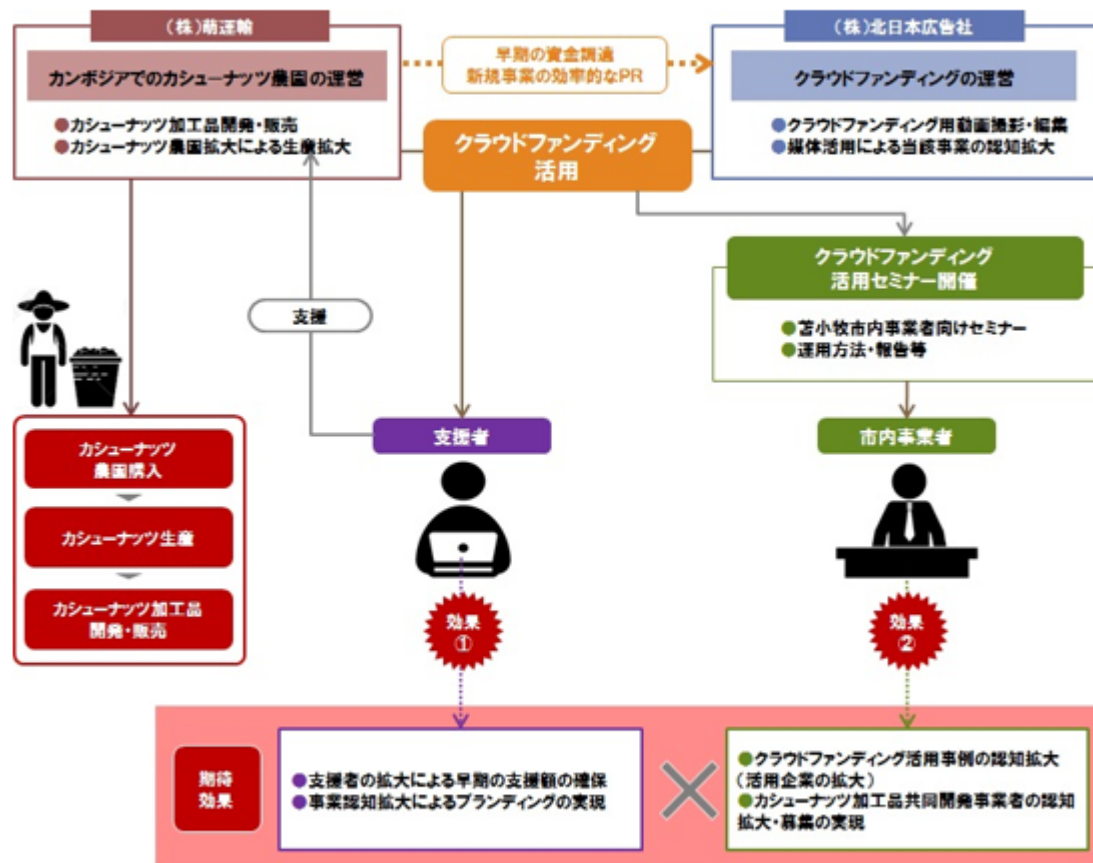
背景/課題

- カンボジアでは国の主要農産物としてカシューナッツの生産を後押し、効果的かつ効率的な日本式農業の実践により、良質な産物の栽培が可能になる。
- 健康志向を受けて日本のナッツ市場が拡大、特に栄養価が高く鉄分も多いカシューナッツは女性を中心に人気で、平成 27 年には 10 年前より輸入量で 2 倍、輸入額で 3 倍に増加している。
- 新規事業においては早期の資金調達が限定的である。また、製品販売時においてブランディング及びPRも難しい。さらに販売時における販売チャネルやマーケティング手法が限定的である。

事業内容/期待効果

- クラウドファンディングによるカシューナッツ農園事業を、苫小牧市民に対して新聞広告を活用し広く告知、市民に支援を呼びかけるとともに、企業関係者に対してはクラウドファンディングによる資金調達という方法を認知させ利用拡大を図る。
- クラウドファンディングを活用することで、短期に、苫小牧市を中心とした地域だけではなく、国内全体に当該事業の認知拡大を図り、カシューナッツ収穫前から長期的なブランディングを確立する。
- クラウドファンディングによるリターン（配当）を設定することで、一般に対して高い宣伝効果を期待する。また、カシューナッツの取引において企業や店舗等へもアピールすることで、取引拡大を実現する。

事業イメージ(全体像)



株式会社萌運輸 × 株式会社北日本広告社

カンボジアでのカシューナッツ農園開発に関わるクラウドファンディングを活用した資金調達事業

8

1月よりクラウドファンディングプラットフォームであるFAAVOに掲載を行い、目標金額の100万円に対して166%である166万円を調達しました。またクラウドファンディングとは別の調達法も加え、最終的に188万円の資金調達を達成しました。

実施結果

農園事業のPRに向けた企画
資金調達の取組に係る周知

クラウドファンディングを
活用した資金調達の実施

クラウドファンディングに係る
他市内事業者への情報共有

FAAVO



活動
内容

- 農園事業のPRに向けた企画を行うほか、11/17(土) -28(水)の期間は現地に渡航し、取組のPRに向けた素材を撮影しました。
- また、当該取組に係る対外広報(ラジオへの出演や新聞取材多数)も積極的に実施しました。
- クラウドファンディングプラットフォームであるFAAVOにおいて19年1月より資金調達を呼びかけました。
- 結果として目標100万円に対し166万円調達と達成率166%を達成し、その他調達ルートも加え、最終的に188万円の資金調達を達成しました。
- クラウドファンディングを活用した新規事業への資金調達の経験(やり方や苦労した点、今後の改善点等)について、苫小牧市内の中小企業に対するセミナーの実施を検討します。
- 今後は支援者に対する御礼の納品対応を行う予定です。

プロジェクト概要

背景/課題

- ・児童福祉施設では、障がいを持った児童の発達支援や親のサポートをしているが、通所している小学生の中には、自発的にトイレに行けない児童があり、現在は施設職員や家族が児童の排泄のサポートを行っている。
- ・児童のより良い社会生活や施設職員や家族の負担軽減のため、児童がトイレの訓練を行い、排泄タイミングを把握して、自らトイレに行くことができるようになることが必要。

事業内容/期待効果

- ・トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社が開発した排泄予測デバイス DFree を活用し、児童の尿量を把握することで、排泄のタイミングの指導を効果的・効率的に行う。
- ・児童の自立的な排泄が達成できるか、またそれを通じて、職員及び家族の負担軽減につながるか検証する。
- ・高齢者向けの DFree が、児童に対しても有効に使用可能か確認し、同様の他施設での使用可能性を検証する。

事業イメージ(全体像)



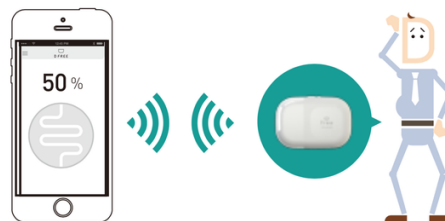
3人の児童を対象に、DFreeによる生活支援における効果実証を行い、トイレへの効率的な誘導等の効果が報告されました。また、児童の意思を尊重した生活支援ができるようになった等、現場における支援側の意識の変革も見られました。

実施結果

導入に向けた説明/ 機材の導入



トライアル実施



効果検証と普及



活動 内容

- 施設でお預かりしている児童のうち、どの子が「排泄予測デバイスDFree」の実証にご協力いただけるのかを、児童の保護者や学校を交えて説明を行いました。
- 保護者向けの説明会后、小学生の児童2名に対して、DFree機器の装着を開始し、排せつタイミングの予知、傾向把握という面で効果が報告されました(2年生児童1回成功)。
- 11/12(月)には3人目の児童(4年生)の装着が開始しました。
- 現在は2名の児童の保護者から効果と課題のヒアリングを実施しています。
- 実証で得たデータを解析し、効果について整理を行います。今後は市内の児童福祉施設だけでなく市外の施設にも実証結果の共有を行い、さらなる利用促進・普及を行う予定です。